2025年（R7年）
8月
No. 397

ひとはつうしん

（題字：佐々木碧空）
（ホームページアドレス）http://hitoha-fukushi.com　（メールアドレス）honbu@hitoha-fukushi.com

社会福祉法人　ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960　FAX(0826)46-4355

先日の夜、20時を過ぎた頃のことです。ひとはに一本の電話がかかってきました。夜勤スタッフが受話器を取ると、困りごとの電話のようで、緊迫した様子が伝わってきます。名前を伺うと、地域の方でした。

スタッフがそのことを察することができたのは、私たちが約40年間にわたって続けてきた「ひとはつうしん」の配達活動があったからです。一軒一軒ひとはつうしんを手配りする中で、地域の方との顔の見える関係を築いてきました。

夜勤中で十分な対応は難しい状況でしたが、スタッフは「何とか対応します」と返答し、すぐに近隣の職員に連絡を取りました。幸い、事なきを得ることができました。

一般的に考えれば、「警察に連絡してはどうですか」「私の仕事ではありません」という対応もあったかもしれません。しかし、その地域の方が警察ではなく「ひとは」に連絡をくださったことに大きな意味があります。日頃からきららの「困ったぞ」「しんどいな」に真剣に向き合い続けているからこそ。歴代のきららや職員が地域の方たちと共に40年間続けてきた小さな日常の積み重ねが、得難い絆を育んでいることを改めて実感した出来事でした。

（事務長　寺尾 真）

第21回 ひとはまつり

令和7年 10月25日(土) 開催

ひとは福祉会前広場（安芸高田市向原町長田1857）

詳しくは10月号のつうしんにてお知らせします

ギャラリー MaDO

梅雨明け、暑い日の午後、若い男性が2人、玄関から入ってきました。「ここは何ですか？」「縄文あいす食べて、広場で遊んでたら、建物が目に入って公民館かなにかかなと思って入ってきました」と話されました。ひとはの仲間のアートをデザインしたTシャツを窓に飾っていたことから、Tシャツ屋さんかと思いましたとも。1人の男性が、ちゃんこ屋安芸の国で縄文あいすを食べ、ショップカードからひとは館のことを知って、食べに来てくださったようです。何もひとはのことを知らないけど、なんだろう？と思ってふらっと入って来られた学生さん達。面白い展開でした！（事務局　竹内 宏美）

ひとはのアートTシャツを展示した次の日、石田孝弘さんの文字をデザインしたTシャツが消えていました。「夕カさんTシャツがないんだけど誰か知りませんか？」…誰も知らない。すると「昨日の夕方、石田さんがTシャツ見てましたよ」と一人のスタッフ。（さては石田さんかな…）翌日、夕カさんTシャツを購入していた私はそれを着てきて「これと同じTシャツ持って行った？」と聞くと「持って行った」とポツリとつぶやき、Tシャツに描かれた文字をジーと見ながら「世界」と言って去って行った。その後ろ姿に「明日着て来てよー。」と叫ぶ私。「はいー」と答えていたけれど、未だ着てきてくれません。夕カさんTシャツを着ている石田さんが見たい！　（ひとは工房　伊藤 千代子）

夕カさんTシャツのデザイン

ひとは の日々

「ワンランク上の接客」

市役所にて毎月開催されるあじさい横丁の店番に、農園の井上隆裕さんと行きました。隆裕さんは毎日元気いっぱいで、草メリリの仕事をしているイケメン、が私の印象です。

接客時、隆裕さんは「〇〇円とギフトチラシです。」と手渡していましたが、他のスタッフから「〇〇円のお返しです。と言った方がもっとよいですよー。」とアドバイスをもらっていました。すると、次のお客様とのやりとりでは「〇〇円のお返しです。ギフトチラシです。」とすぐにワンランク上の接客ができ、とても素敵でした。ほんの2時間の店番でしたが、これまで知らなかった彼の一面を発見することができました。　（ひとは工房　蔵下美穂）

「わしは」

ホームの女性さらら数名が5月の半ばに居室移動をしました。就寝時、佐々木千代子さんと一緒に居室へ行くのですが、エレベーターから降りて何も考えず歩いていると、間違えて今の居室とは真逆の、前の居室まで行ってしまいました。そんな時に佐々木さんは「わしは今ここじゃないよ！」と笑いながらツッコミを入れてくれます。2人の大きな笑い声が廊下に響きました。佐々木さんは早い時で朝5時過ぎには起きられます。朝早くから寝言なのか…小さな声で話し声が聞こえてきます。必ず聞こえてくる言葉は「わしは、あかまんま（仕事場）に行かにゃいけん！」です。佐々木さんはまもなく87歳。仕事に命を懸けて張り切られている姿に尊敬です。　（共同ホーム　柳綾乃）

「見学に来られて」

吉田地区民生委員さんが見学に来られました。作業所に入られたとき、数名の方が「のりくんじゃ、のりくんじゃ、面影があるね」とざわつきました。のりおさんはキョトンとしていました。「お父さんもお母さんもおられんし家も空き家になって心配しとった。元気そうじゃ。安心した」と言われました。「のりおさんは皆の人気者ですよ」とお伝えすると「そうなん、嬉しいね」と言ってくださいました。地域の繋がりを感じ、心が温かくなりました。
（共同ホーム　内窪美由紀）

ひとは40周年を前に

「ひとはって、いつも何かをしようるよね」って、私がまだヤングでナウかった頃、よく周りの人たちから言われていた言葉です。

平成7年の法人認可移行後、毎月第4日曜日は「風のみち」と称して、地域の方にも気軽に参加をしていただける音楽イベントやレクリエーションなどを開催していました。それ以外にも、毎月の月末かつ週末のアフターファイブには「歌ごえ喫茶」を開店し、地域の人たちの寄り合い処として、ひとはが存在していました。その他、ジャズバンド、宮沢賢治の語り芝居等と、常に何らかの行事の企画、開催に追われ、「自分は何屋さんで仕事をしようるんじゃろうか？」と思いながらも、いろんな人との出会い、イベント後の打ち上げで疲れも癒され、なんて楽しい仕事なんだろう、ひとはを知ってもらう方法はいろいろあるんだということを経験させてもらうことができました。

「あれから（おおよそ）30年」、地域の人たちに障がいのある人たちの状況に関心を寄せてもらうためには、面白がってひとはに足を運んでいただけるきっかけが必要と思います。福祉は身近なものと感じてもらえる、そんなひとは作りを続けていきたいと思います。　（佐竹正充）

編集後記

お風呂上りに汗が引くのを待ちながらSNSを眺めていると「カフェでクリスマスソングが流れていて涼しい気分になった」という投稿を見つけた。なるほど、そういう凌ぎ方もあるのかと思い、早速試してみると確かに一瞬汗が引いたような気がした。皆さんもお試しあれ。　（白井くみこ）